

ひまわりだより



令和3年5月30日発行

5月のGWが明け、生活リズムを整えていくのに、少し時間がかかったご家庭もあるかと思います。今年は、梅雨入りも全国的に早いようで、これからの体調面は、赤ちゃんを始め、ご家族の皆さんが留意していきたいことですね。この時期に流行りやすい疾患について、紹介いたします。

溶連菌感染症

溶連菌という静菌がのどに感染し、のどの痛み、38～39℃の高熱、嘔吐、腹痛、頭痛を起こすことがあります。体や手足に発疹などが出始め、下はイチゴのようにぶつぶつが出ます。

★家庭内で移る確率は20%です。大人も手洗い・うがいを心掛けましょう。

手足口病

夏風邪の一種で、せきや唾液から移ります。手足口に白い水泡状の発疹が出来、口内炎が痛く、食欲が落ちます。水分補給が大切です。熱はあまり高くなることはありません。2～3日で炎症が治まっています。

★原因となるウィルスが1種類ではないため、一度罹っても免疫は尽きません。

咽頭結膜熱（プール熱）

夏風邪の一種で、発熱39℃前後の高熱が4～5日続き、のどの痛み、咳、目ヤニ、目の充血があります。さらに、頭痛・吐き気・腹痛・下痢を伴うこともあります。

★水分を十分に摂り、熱さましを使いすぎないように、涼しい部屋で安静にしましょう。

RS ウィルス

原因は、RS ウィルスで風邪と似たような症状が出ます。発熱・鼻水が数日続き、咳がひどくなることもあります。細気管支炎や肺炎のため入院が必要になる場合もあります。

★診断では1歳未満や入院患者に対して、RS ウィルス抗原迅速検査を保険で行うことができます。

【5月の感染・利用状況】

●ウィルス性胃腸炎 1名 の利用がありました。

*病児登録につきましては、検討中です。決定次第、ホームページに記載致します。